

「DO!NUTS TOKYO」公開イベント ゼロエミアクション・ムーブメントの拡大に向けた若者からの提案 ～若者アンバサダーと小池都知事とのトークイベント～



タイムテーブル

<第1部：若者アンバサダーによる「アイデア・ピッチ大会」>

若者アンバサダーがこれまでの活動を通して考えた消費行動改革アイデアをピッチ形式でプレゼンし、参加者による応援したいアイデアへの投票を行います。皆さんが選んだアイデアが「カタチ」になるかも！？

14:00 開場

14:30～16：30 【第1部】若者アンバサダーによる「アイデア・ピッチ大会」

- ・イントロダクション
- ・開会のご挨拶
小林光(サステナブルライフスタイルTOKYO実行委員会副委員長、東京大学教養学部客員教授)、
千葉稔子(東京都環境局気候変動対策部)
- ・DO!NUTS TOKYO活動報告
- ・若者アンバサダーによるゼロエミ消費行動改革アイデア・ピッチ大会
- ・参加者によるオンライン投票
- ・コメンテーターによる質疑応答&アドバイス
- ・結果発表&受賞式
- ・閉会ご挨拶
吉高まり(サステナブルライフスタイルTOKYO実行委員会委員、
(株)三菱UFJリサーチ&コンサルティングフェロー(サステナビリティ))

<第2部：若者アンバサダーと都知事とのリアルトークイベント>

若者アンバサダーから活動の振り返りと今後への提言を発表。東京都知事と、直接、ゼロエミッション東京実現に向けてのアクションについて意見交換します。

16:45～17：35 【第2部】若者アンバサダーと都知事とのリアルトークイベント

- ・開会のご挨拶 (ビデオメッセージ)
小宮山宏(サステナブルライフスタイルTOKYO実行委員会委員長、
(株)三菱総合研究所理事長)
- ・DO!NUTS TOKYO活動報告
- ・若者アンバサダーによる活動の振り返りと今後に向けた提案
- ・都知事と若者とのトークセッション
- ・閉会ご挨拶
鈴木敦子(サステナブルライフスタイルTOKYO実行委員会副委員長、
(株)環境ビジネスエージェンシー代表取締役)

主催：東京都環境局、サステナブルライフスタイルTOKYO 実行委員会

後援：プラチナ構想ネットワーク

協賛：エコツェリア協会(一般社団法人丸有環境共生型まちづくり推進協会)、(株)ボーダレス
ジャパン(For Good)、東急株式会社

若者アンバサダーによる アイデア・ピッチ大会



応援投票はこちら！



1. 「地域文化を活用し社会を巻き込む環境教育プログラム」

伊藤正人（Value Frontier株式会社）

祭りなどの地域の文化資源の背景には自然との共生がある。そうした文化資源を起点として社会に働きかける形の環境教育を実施することで、自然共生社会の実現を自分事として捉え、行動していく意欲を醸成していきたいと考えています。



2. 「再エネ100%企業を応援する市民参加型プロモーション」

阪田留菜（慶應義塾大学総合政策学部）

学校、地域活動、SNSで市民を巻き込みながら企業の再エネ100%をプロモーションするプロジェクト。企業の本気の脱炭素の取り組みを知ってみたいです。



3. 「メディアを通じた脱炭素社会への意識改革」

細谷優希（経営学修士課程）

佐々原悠馬（同志社大学政策学部）

気候変動の危機に直面する状況において、メディアが科学的根拠に基づく正しい情報を積極的に発信し、すべての人々が社会を構成する一員として自律的かつ主体的に脱炭素に取り組みアクションを起こせる国民の意識を醸成していきたいです。



4. 「自分ごととして気候変動解決に挑戦する チェンジメーカーたちのウェルビーイングを高めるには？」

井上寛人（慶應義塾大学大学院SDM研究科修士課程）

どのような要因が、気候変動分野のチェンジメーカーのバーンアウト(燃え尽き症候群)に影響しているのか？という私の研究テーマを元に、彼らがよりウェルビーイングに活躍できる社会の作り方について、皆さんと対話をできれば幸いです。



5. 「グリーンウォッシュチェッカー」

松井大輔（株式会社ゼロック）

続々増える環境表現。ますます増えるグリーンウォッシュ。出し手も受け手も感じている環境コミュニケーションのリスクを、ITの力でチェックします。



6. 「みんなの力で広告費を自然を守る寄付に変える」

市橋咲（株式会社NTTドコモ）

自然を守りたいと思うSNSユーザーの力を借りて、サステナブルな企業の商品・取組みPRを拡散してもらうと、広告費の一部が自然を守る寄付になる。企業、一般消費者、自治体/NPOをつなぐ【応援広告】の仕組みを説明します。



7. 「ネイチャーポジティブな未来へ向かおう ～生物多様性の世界目標に東京から挑む～」

山口空（東京大学大学院農学生命科学研究科博士課程）

2030年までに生物多様性の損失を食い止め回復させる「ネイチャーポジティブ」に向けて、世界が動き出しています。私たちはどのようにコミットし、ここ東京都からどのようなムーブメントを起こしていけるのでしょうか？